

研究課題名:手術不能および術後再発大腸癌患者に対する抗がん剤治療における全生存期間と入院期間・外来受診回数その後ろ向き研究

1. 研究の対象

2015年11月1日から2020年11月30日までに宮城県立がんセンターで抗がん剤治療を受けた手術不能および術後再発大腸癌患者症例を対象とします。

2. 研究目的・方法

治癒不能癌に対する治療目的は生存期間の延長のみでなく、患者の QOL の維持です。手術不能および術後再発大腸癌に対する治療は抗がん剤が主体であり、それらの治療効果の評価に関しては、現在は主に全生存期間で行なわれています。一方、頻回な入院や外来受診は QOL を悪化させることが知られています。そこで今回の検討では手術不能および術後再発大腸癌に対する抗がん剤治療における全生存期間と全入院期間・全外来受診回数から患者の全臨床経過における QOL について検討したいと思います。

適格規準

- 1) 組織的に腺癌と診断された手術不能および術後再発大腸癌患者
- 2) 宮城県立がんセンターで2015年11月1日から2020年11月30日までに抗がん剤治療を受けた方
- 3) 年齢が20歳以上
- 4) PS 0-2
- 5) OS,入院期間、外来受診回数が判明している
- 6) 組織のRAS検査が行われている

2021年12月31日まで経過観察を行い、情報を収集し解析します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- 年齢・性別・PS
- 原発巣(亜部位:(①盲腸 ②回盲部 ③上行結腸 ④横行結腸 ⑤下行食道 ⑥S状結腸、⑦直腸))
- 遠隔転移の有無 (M-Factor:①M0、②M1)、及び部位の詳細
- 病理組織(①高分化腺癌、②中分化腺癌、③未分化腺癌)
- 転帰(①生存、②永眠)

- 生存期間
- 総入院期間
- 総外来受診回数
- その他

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究責任者：

宮城県立がんセンター 腫瘍内科 村川 康子(研究責任者)